

平成30年度「小・中学校ジョイントスクール推進事業」島守中学校区実践計画書

事務局 島守中学校 (担当: 教頭 鈴木 悟)

1 主題 (2/2年次)

確かな学力をはぐくむ小中連携の在り方
～ 特別支援教育の視点を取り入れた指導の充実をめざして ～

2 主題設定の理由

島守中学校区では昨年度より「確かな学力をはぐくむ小中連携の在り方～特別支援教育の視点を取り入れた指導の充実を目指して～」を研究主題として、小・中学校が連携して様々な取組を実施してきた。

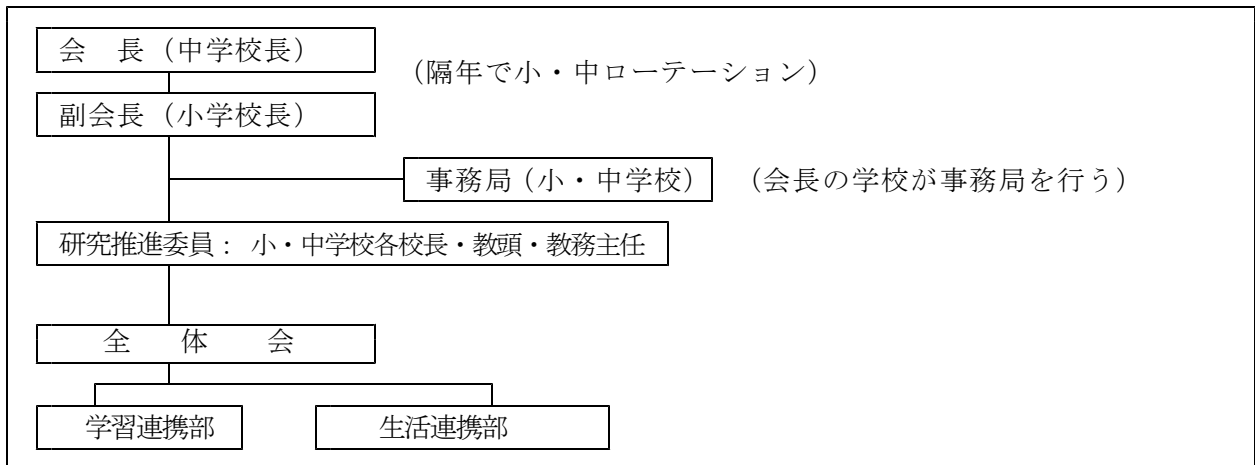
- ①特別支援教育の視点を取り入れた指導の実践として、ICT機器を活用した視覚化、板書の工夫、めあてやまとめを書くときのチョークの使い方、授業の流れの提示の工夫等の取組が共通実践された。そのことによって、授業改善がなされ、児童・生徒の理解度が上がり、確かな学力の育成につながった。
- ②島守小・中学校の合同運動会や小学校の学習発表会の会場準備や後片付けの手伝いを行うなど、小学生にとっては目標に、中学生にとっては自己有用感を高めるきっかけとなった。
- ③夏季休業中と冬季休業中の学習交流会や秋季大会壮行式への小学生の参加を通して、少しでも中1ギャップを解消することができた。

以上のような取り組みの中から次のような課題が見えてきた。

- ①発達の段階に応じた系統的な指導と9年間を見通した共通指導体制
 - ・小学校と中学校の授業内容の系統性の把握と指導法の共通実践を行う。小学校の学習内容を把握し、中学校での授業構成をより効果的に進めていく必要がある。
 - ・ICT機器の利用が日常的になされてきていることから、今年度は、効果的な利用の仕方の研究を行う必要がある。なお、特別支援教育の視点を取り入れた指導の研究は昨年同様継続をし、小・中学校の共通指導項目を研究していく。
- ②中1ギャップを解消する小・中学校での交流事業
 - ・小中合同運動会や文化祭、交流学习や壮行式への小学生の参加を通して、中学校への不安やギャップが解消され、安心して中学校に進学できると考えられる。
 - ・中学校の教員が小学校を訪れ授業交流を行うことで、それぞれの発達の段階に応じた指導法を理解することによって、より確かな学力を育むことができると考えられる。

以上2つの取組を、今年度の大きな柱として、小・中学校職員の共通理解のもと実践し、確かな学力を育んでいきたい。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 中学校区の重点指導項目

島守中学校区 重点目標

- | | |
|---|-----------|
| <input type="checkbox"/> 規則正しい生活をする。(早寝、早起き、朝ご飯) | ⇒基本的な生活習慣 |
| <input type="checkbox"/> 場に応じたあいさつや受け答えができる。(あいさつ・受け答え) | ⇒人間関係の形成 |
| <input type="checkbox"/> 予習・復習・読書など家庭学習に計画的に取り組むことができる。 | ⇒家庭との連携 |